

第1回 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日 時 平成 25 年 5 月 30 日 (木) 午前 9 時から午前 11 時

2 場 所 大阪イノベーションハブ (WEB 会議)

3 出席者

(委員)

校條委員長、松本委員、外村委員、吉原委員

(都市計画局)

佐藤局長、藤原理事、山口部長、折原課長

4 議 題

(1) 平成 24 年度実施事業について

(2) うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援事業基本方針(案)について

(3) 平成 25 年度事業にかかる評価について

5 議事要旨

意見等の概要は以下のとおり。

(1) 平成 24 年度実施事業について

- ・ 起業家をめざす方たちをシリコンバレーへ連れていったが、ビジネスのアイデア、プラン、プレゼン、英語、何からなにまで十分な質には達していないのが実態。それを批判しているのではなく、だからこそこの取り組みを初めており、実施した結果、質が悪いからだめだ、と考えず、これが現実で、ここが我々のスタートラインだということを認識して欲しい。
- ・ はじめての取組みで、時間と資源が無い中、初年度としては良いと思う。
- ・ 国際会議もインパクトを出したことを伝え、ものアプリハッカソンもこういうことをやり始めているということが大事。引き続き連続して取り組み、大きくしていくことが重要。
- ・ 情報発信は不足している。人員をあてて、通常以上の力を入れてやるべき。
- ・ 個々のプログラムが全体の中でどのような位置付けにあるのか、整理すべき。

(2) うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援事業基本方針(案)について

- ・ かなり盛りだくさんなので、マネジメントが非常に重要。それぞれのプロジェクトの責任者、全体の責任者の顔が見えることが大事。
- ・ すべてを一度に実施すると見えがちなので、最初の半年、1年はこれで、次に

これ、というように時間軸が進むに従って注力する部分がシフトしていく、ということが見えるようにしたほうがよい。

- ・時間軸と各々の事業のマイルストーンが見えないと、優先順位が無いままいきあたりばったりで今年の1年が終わってしまう危険性がある。
- ・基本方針に沿ってたくさんイベントをやったというだけでなく、要所要所でPDCAを行い、戦略的に優先順位やマイルストーンを議論する必要がある。

(3) 平成25年度事業にかかる評価について

- ・国際会議について、独自イベントで続けていくことはなかなか厳しい。双方にメリットある共催相手を提携することも検討したほうがよい。
- ・定量的な指標について、単なる件数だけではなく、数値の持つ意味を明確にして、質をみる必要がある。
- ・大きな目標を達成するためには、スーパープロデューサー・ネットワークに何人参画いただいたか、ということも重要。
- ・この事業の評価にとっては、スーパープロデューサーのネットワークを作ることが大きな役割であり、そこは評価軸にいれるべき。

6 会議資料

- (1) 資料1 評議会条例、大阪市イノベーション促進評議会規則
- (2) 資料2 委員名簿
- (3) 資料3 うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援事業基本方針(案)
- (4) 資料4 24年度事業実施状況
- (5) 資料5 25年度評価基準(案)
- (6) 資料6 メンバー登録フロー(案)